

資料 男子の母性看護学実習について

男子も女子と同じ内容の母性看護学実習を行うようになった学校が増えてきていると言われているが、実際にどのように行われてきたかについては、これまで把握されていなかった。そこで「看護学校への社会人入学に関する調査」の中で、男子の母性看護学実習に関する設問を設け、3年課程、看護短期大学それぞれの実態を把握した。結果は次の通り。

I 3年課程看護学校

3年課程については、男子学生がいない学校を含め無回答が多かったので、この設問に回答のあったものだけを集計した。

1 男子学生は女子学生と同じ実習を行っているか

男子と女子が同じ母性看護学実習を行っているとは回答しているのは、99校(70.2%)である。

同じ実習を行っていないと回答している42校(29.8%)の実習の特徴は、「乳房マッサージはしない、妊産婦の身体に触れる実習はしない」28校「産科実習は行っていない」4校などである(表3-1)。

表3-1 男子学生の母性看護学実習の内容

女子と同じ実習を行っている	99 (70.2)
女子と同じ実習を行っていない	42 (29.8)
合 計	141 (100.0)

女子の行う実習との違い(自由記述)

乳房マッサージはしない、妊産婦の身体に触れる実習はしない	28
産科実習は行っていない	4
見学のみで受け入れ無し	2
拒否があれば行わない	2
女子とペアを組む	2
そ の 他	3

2 男子学生が母性看護学実習を行う際に困難だったこと

男子学生が母性看護学実習を行う際に困難だったこととして、77校(54.6%)は「特に困難はなかった」と答えている。困難なこととしてあげられた回答では、「学生が男性であるということで妊産婦が

拒否した」29校（20.6%）が最も多い。次いで「実習病院側が拒否した」12校（8.5%）、「学生が男性であるということ」で妊産婦の家族が拒否した」7校（4.9%）となっている（表3-2）。

表3-2 男子学生が母性看護学実習を行う際に困難だったこと（複数回答）

特に困難はなかった	77 (54.6)
学生が男性であるということ」で妊産婦が拒否した	29 (20.6)
学生が男性であるということ」で妊産婦の家族が拒否した	7 (4.9)
実習病院側が拒否した	12 (8.5)
その他	29 (20.6)
回答校数	141 (100.0)

II 看護短期大学

1 男子学生は女子学生と同じ実習を行っているか

女子学生と「同じ内容の実習を行っている」と答えているのが13校（31.0%）と最も多い。次いで、「女子学生とは1部異なる」9校（21.4%）である（表3-3）。女子学生との実習内容の違いと、その理由は自由記述参照。

表3-3 男子学生の実習内容（女子と同じ実習を行っているか）

同じ内容の実習を行っている	13 (31.0)
男子は入学していない	3 (7.1)
男子はいるが母性看護実習前である	7 (16.6)
女子の実習とは1部異なる	9 (21.4)
無回答	10 (23.8)
合計	42 (100.0)

女子の行う実習との違いとその理由（自由記述）

- ・患者を受け持つ時、ケアを行うときに褥婦の同意を十分得ること。なるべく分娩第1期から受け持たせ、対象者との関係をとりやすくする。状況によっては女子学生と一組みで受け持たせる。
- ・妊産婦が拒否すればオロ交換、マンママッサージ等は見学にしている。
- ・外陰部の直接的ケアのみ男子学生は行わない。患者さんの一番拒否する行為のため。
- ・実習期間は女子と同じである。ただし受け持ちケースを新生児のみにし、新生児の看護過程の展開を通し、出産時の母親の看護を実践させている。
理由は、母親の乳房ケアなどの実践行為が対象側から受け入れにくいのではないかとすることを予測してこのようにした。事実授乳室の大勢の女性だけの集団の中に男子が1名入るため、児の母親に了解を得る際、母親に緊張がかなり認められた。
- ・殆ど同じ内容の実習を行うことにしているので、できるだけ男女でペアを組んで実習をさせるように

計画している。特に問題となる点は、乳房管理（マッサージ、直接授乳介助）。実習はこれからです。父性としての対象の見方を考えられる実習にしたいと考えている。実習病院側としては自然にかかわらせていく姿勢である。

- ・妊娠、分娩における直接的な身体ケアを中心にするのではなく、家族作りを焦点とし、生殖という側面への男女両性の協力への必要性を中心に実習させる。性器に対する直接的ケアは必ず女性教官が立ち会う。分娩時の援助、見学等は女子学生と同じ。
- ・実習目標は、女子同様に設定しているが、妊産褥婦のケアの1部（乳房管理・オロ交換など）について介入レベルの調整をしている。男子学生用の実習マニュアルも使用。女子学生とペアの受け持ち設定により、患者への配慮（レポート作りを教員も一緒に入るなど、その学生の状況によっても異なる）。
- ・外陰部消毒、内診などの介助及び乳房ケアは見学のみ。他は指導教官の指導のもとで女子学生と同様の実習を実施。学校、臨床、産婦人科医と数度にわたる協議の上決定した。現在まで問題は生じていない。

2 男子学生が母性看護学実習を行う際に困難だったこと

男子学生が母性看護学実習を行う際に困難だったことについて14校（33.3%）は「特に困難はなかった」と回答している（表3-4）。

表3-4 男子学生が母性看護学実習を行う際に、困難だったこと（複数回答）

特に困難はなかった	14 (33.3)
学生が男性であるということで妊産婦が拒否した	1 (2.3)
学生が男性であるということで妊産婦の家族が拒否した	1 (2.3)
実習病院側が拒否した	2 (4.7)
その他	6 (14.2)
回答校数	42 (100.0)

引用文献：看護関係統計資料集 平成5年，平成6年，平成7年

厚生省健康政策局看護課監修 日本看護協会出版会発行